



第139号 (季刊)
令和3年7月
田中野田町内会

<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>



自然災害に備えて

副会長 脇坂 利彦

皆様には、平素から町内活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年は過去二番目の早さで中国地方に梅雨入り宣言が出されるなど、何十年に一度とか観測史上最大の***など、経験した事がない気象現象が多くなり、自然災害に見舞われるリスクは高まる一方です。ご存知の様に御南学区の最大リスクは豪雨・長雨による内水氾濫や河川の洪水などの水害と南海トラフ大地震による液状化現象です。ハザードマップによると内水氾濫：0.2～0.5メートル、洪水：0.5～2メートル、最大震度6強・液状化のリスクは極めて高いとされています。



出水期（6月～10月）を迎えると過去の災害で得られた教訓などが多く報道され、日頃の備えと早めの避難行動が呼びかけられていますが、私たちは何をすれば良いでしょうか。

災害の備えを考えると、「自助」「共助」「公助」に分けられます。自助として、食料・飲料水・トイレトーパー・常備薬などの日用品の備蓄、災害用簡易トイレの準備、自宅耐震化の確保、家具類の転倒落下防止、家族同士の安否確認、避難経路の確認、自然災害に対応した保険への加入など、やるべき事（出来る事）は多くあります。

町内会では3年前の西日本豪雨をきっかけに自主防災組織を再編成(次ページへ連絡網)しています。自然災害発生時に希望する方に対して必要な支援が出来るように民生委員・各組理事による現況確認・避難誘導・支援の必要性確認・情報共有しています。また2号公園に防災倉庫を設置して災害時の備えとしていますが、要配慮者への避難支援同様、幸いなことに実際の活動経験がなく必要機材の充実に合わせて救助（支援）する側の人員増強、能力強化などが必要と考えます。御南地区はハザートマップで示されているように自然災害のリスクがやや高いとされていますが、「救助する人」が多い地区は防災に強い地域と言われています。自然災害への備えは自助が基本ですが、不足分は自主防災組織などを中心とした共助で補える田中野田にしたいですね。



※6/20緊急事態宣言解除、リバウンド防止強化期間6/21～7/20 マスクの励行等